

## 第 111 回生涯学習分科会における主な御意見

**(1) 社会的包摂を実現していくために「命を守る」生涯学習・社会教育が果たす役割に関して**

- 生涯学習は、誰一人も取り残さないデジタル社会を実現するために資するものであるべきで、デジタルに苦手意識がある方や環境が整わない方が学びを避けられないような支えが必要である。
- 社会的包摂の中で救う必要がある、学校に行けない不登校の子供たちの学びについて、既存の社会教育施設を活用した施策など社会教育と学校教育が連携した支援を検討すべき。
- 社会的包摂を考える際、インクルーシブデザインのアプローチの出発点である、アンコンシャス・バイアス（自分が偏見を持っているかもしれない）の考え方が重要である。
- 漏れなく、ダブリなく、不足なくという MECE<sup>1</sup>の考えが行政には必要。制度や施策ができてくるとそれらのはざまに落ち込んだ人が出てくるのが起こりがちであり、どう取りこぼさないようにしていくかを議論する必要がある。その際、サービスデザインのアプローチなどアートやデザインの教育が貢献できるのではないか。
- 多世代の人々が、障害のあるなしに関わらず交流しあい関わりあいながら、自らが担い手となって取りこぼしがらない社会を作っていくコミュニティ・バイ・オール<sup>1</sup>の方向性を考える必要。
- 福祉と教育の境界領域において、福祉から一歩抜け出して社会教育はどうすべきかを考えていかなければならない。
- コロナ禍において、支援する側の NPO が疲弊していることも考慮して、連携・協働による弱者への支援を考えていくべき。

<sup>1</sup> Mutually Exclusive, Collectively Exhaustive の略。相互に重複せず、全体として漏れがないという意味で、「漏れなく、ダブリなく」と訳されることが多い。

- 検討のプロセスが社会に開かれていることに意義があり、分科会の議論が現場の実感と対応できるものにしていく必要がある。

## **(2) これからのデジタル社会において必要なリテラシー・スキルの育成に関して**

- 現在の社会は、オンラインとオフラインは常にハイブリッドで構成されていて、デジタルリテラシーをつけないと生活はしていけない状況にある。
- デジタルスキルやリテラシーを学ぶ必要性について、ウェルビーイング（幸福感）の観点から、個人にメリットがあるだけでなく、社会参加としても重要であるという価値の共有や意識の醸成が必要である。特に高齢者にとって社会への貢献意識が幸福感に与える影響は大きく、デジタル技術やリテラシーを身に着けることが社会貢献につながる仕組みづくりが重要ではないか。
- 家庭教育のためには、保護者のリテラシー育成が非常に大切である。また、地域全体のメディアリテラシーやデジタルリテラシーを高めるために、特に公務員や民生委員などのリテラシーやスキルを定期的に向上する必要がある。
- 働いている企業人もリスキリングによりデジタルに合わせたスキルを身につける必要が生じている。
- 多様なメディアを活用して情報を収集・解釈する力や、情報の妥当性や信頼性を踏まえて公正に判断する力などのメディアリテラシーの育成を含む主権者教育は社会を構成する全ての人に必要であり、デジタル・シチズンシップ教育の推進を検討する必要がある。
- バックカスティング教育、リーダーシップ教育、アントレプレナー教育をすることが重要である。

## **(3) デジタル社会における学びの充実に関して**

- 対面にしろオンラインにしろ、何があっても学びを止めないことが最も重

要であり、その仕組みづくりは危機管理である。学びのアクセスを広げることが大切である。

- オンラインの学びを提供する際に、魅力的な内容を作ることが必要。自分の人生にとって意味がある学習の内容がなければ、リテラシーがあっても学びに向かない。
- 学習履歴のデジタル化についても議論を深めたい。
- 学習者同士がこれまで学んできたものを対話の中で深めていくようなブレンドド・ラーニングが広がっていけばよい。
- リアルな学びや生活体験・実体験により感性を磨く学びの場も必要。
- デジタル社会の実現を考えると、障害や貧困等によりデジタル化の障壁を乗り越えられない人々を考えると同時に、一般的な若者が携帯依存に陥ってしまうというデジタル社会の病理も生涯学習の課題として考える必要がある。
- デジタルトランスフォーメーション（DX）は、社会に対しては生産性を上げたり価値を高めたりする要素もあるが、その変化に適応できなければ、貧困などの大きなリスクを個人にもたらす側面もある。日本がどのように向き合うかも生涯学習のテーマとして大変重要。
- 生涯学習の場における通信環境の整備について、公共の社会教育施設間や大学・専門学校間の整備状況には格差が生じており、改善が必要

#### **（４）持続可能な地域社会の形成に関して**

- デジタル化の中でのまちづくりと生涯学習の関係性もみていくべき。デジタル・ディバイドの解消に向けて、若年層が中高年層に教える場など多世代が交流しながら学べる場があるとよいし、デジタルトランスフォーメーション（DX）を地域活性化につなげる自治体の取組と連携するのもよい。
- 持続可能社会の実現にむけて、地域の技術力のアップデートを生涯学習で

図ることが必要。

- どこに地域の課題があるかを探し出す仕掛けと、対話によって課題を解決に結びつけていく、新しい地域の力をつくる必要がある。地域において、多世代をつなぎ、誰が何に困っていて地域にどんな課題があるかをつかむ、学びのコーディネーター人材の育成・活用が課題。
- 大都市と地方は分けて考えるべき。特に地方都市において組織・機関別で考えるのではなく連携の意識が必要。